

1. 総評

- (1) 阿字ヶ浦は男女混合ミックス大会のルールの特長を最大限に活用し、女子6名+男子3名の混合チームであった。男子3名をバックに配置し、サーブレシーブとレシーブの繋ぎが圧倒的に強化され、盤石な布陣であった。
- (2) 一方、柏野クラブは女子9名の布陣で、強化された阿字ヶ浦に挑む構図となった。戦力的には、当然ハンディがあると言わざるを得なく、柏野クラブは実力は出し切ったものの、善戦するも阿字ヶ浦の強化策の壁に敗れた印象であった。
- (3) 今後、協会として運用面を少し考えなければならないことは、男女混合ミックスチームと女子チームの対戦をどう位置づけるかである。大会規則上、問題はないのであるが、当然勝敗には少なからず影響を与えるため、公平性と言う観点で何らかの議論は必要であると考えるところ…。

2. 各セット戦評

阿字ヶ浦

- (1) 第1セット (21対13)
 - 1) 男子3名の投入により、サーブレシーブとレシーブの繋ぎが圧倒的に強化された。ボールが中々床に落ちないという印象…。
 - 2) セッターへ良いパスが多く入る為、アタッカーの使い方が自由自在であった。
- (2) 第2セット (21対18)
 - 1) 序盤はリードするも4対4に追いつかれ、1回目の作戦タイムをとる。
 - 2) 攻撃が雑になっている感じが見られ、ネットタッチのミスも目立つようになった。
 - 3) 試合の中盤頃までトスがやや乱れる傾向にあった。
 - 4) 男子が入ったチーム作りは、どのチームも急造であると思う。そのためか、レシーブのコンビネーション不足が見られた。これは止むを得ない事情と思う。
 - 5) やや不利とも取れる微妙な審判ジャッジが続いた。その影響ではないだろうが、後半が纏れた展開になったが、最後は地力に勝る阿字ヶ浦が逃げ切った。

柏野クラブ

- (1) 第1セット (13対21)
 - 1) 序盤から中盤に掛けて、阿字ヶ浦の勢いが凄まじく、5対11で1回目の作戦タイムを取る。
 - 2) 特に悪い部分はないが、阿字ヶ浦のスタートダッシュを褒めるべきであろう。
 - 3) 攻撃パターンが単純なのと、クイックと両サイドの平行トスが、阿字ヶ浦と比較すると遅い。スパイクの決定力不足もあり、13対21とワンサイドで第1セットを失った。
- (2) 第2セット (18対21)
 - 1) メンバーチェンジを行い、ゲームの流れを変える作戦に出た。
 - 2) レシーブに本来の粘りが出てきた。また、ブロックのワンタッチを上手く取れる様になり、チーム内のリズムが出てきた。6対8の2点差で、後がない為、早めの作戦タイムを取る。
 - 3) サービスエースが前半に1本、中盤に1本出るなど、終盤まで互角の戦いを見せた。
17対18の1点差で2回目の作戦タイムをとり、18対18に追いつくも、その後一気に3連続失点し第2セットも失った。